

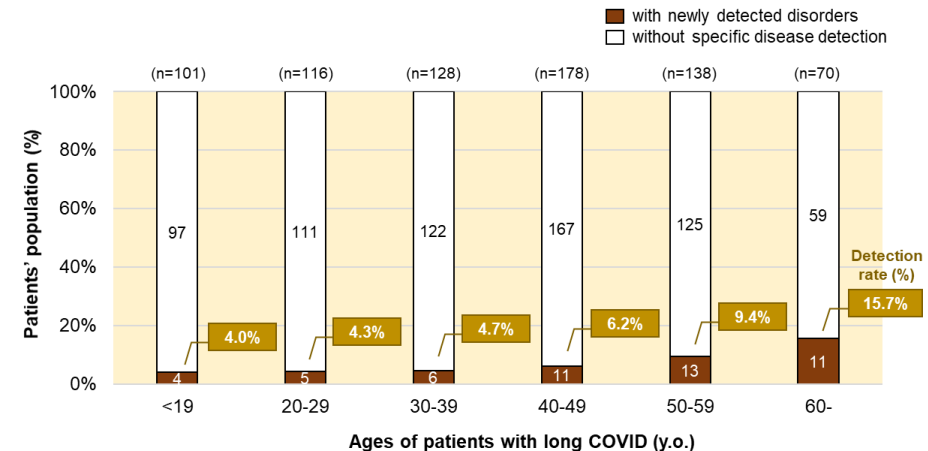
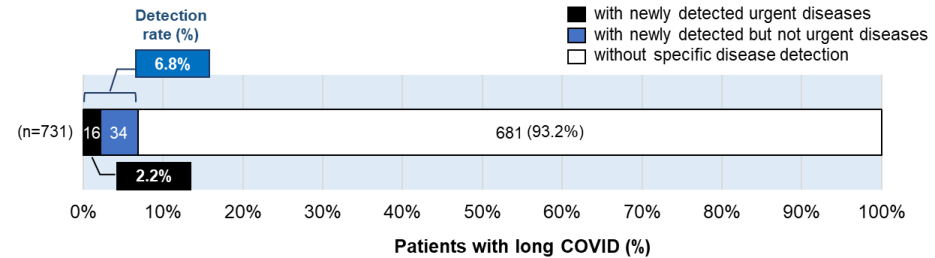
コロナ罹患後症状のなかに潜在していた疾病とその割合

2021年2月から2023年6月に当科コロナ・アフターケア外来を受診された方、731人を対象にデータを分析しました。

✓Long COVIDを疑われて受診した731人のうち、50人(6.8%)に何らかの介入/フォローを必要とする疾患(52疾患)が同定されました。うち16人(32%/全体の2.2%)は、long COVIDによる症状よりも治療が優先されることが考えられました。

✓このような疾患が見つかる割合は、年齢とともに増加し、60歳以上の方では15.7%に及びました。

✓内分泌代謝疾患・血液疾患・呼吸器疾患が各々8人(16%)と最も多く、52疾患中35疾患(67%)が受診契機となった症状と関連していた一方、内分泌代謝疾患は症状との関連が最も乏しいことが分かりました。



コロナ罹患後症状の受診者には、Long COVID以外の他の疾患が潜在する割合が高齢者で多く、後遺症症状との関連が小さくとも、内分泌代謝疾患が発見されやすいことが分かりました。

Yasuhiro Nakano, Naruhiko Sunada, Kazuki Tokumasu, Hiroyuki Honda, Yuki Otsuka, Yasue Sakurada, Yui Matsuda, Toru Hasegawa, Daisuke Omura, Kanako Ochi, Miho Yasuda, Hideharu Hagiya, Keigo Ueda and Fumio Otsuka.
Occult endocrine disorders newly diagnosed in patients with post-COVID-19 symptoms. Sci Rep. 2024;14(1):5446.